

学術研究・調査活動の名称：地質・文化遺産の記録と保存に資する三次元モデルの構築

代表申請者（所属）：池見洋明（日本文理大学）

成果概要：

本研究では、豊後大野市内にある大切な地質や文化の遺産を、三次元（立体）データとして記録し、将来に残す取り組みを行いました。対象としたのは、菅尾磨崖仏や犬飼磨崖仏、大正時代につくられた石橋「亀甲橋」など、地域の歴史や自然を今に伝える貴重な資源です。

これらの遺産は、長い年月の中で少しずつ風化したり、地震や豪雨の影響を受けたり、場合によっては撤去されてしまうこともあります。そこで本研究では、専用の測量機器やスマートフォンの立体計測機能を使って、対象物を詳しく測り、立体的なデータとして保存しました。

菅尾磨崖仏については、過去に測ったデータと今回のデータを比べることで、形の変化が起きていないかを確認しました。その結果、ごくわずかな変化が見られる可能|生のある時期と、ほとんど変化が見られない時期があることが分かりました。このように、目で見ただけでは気づきにくい変化も、立体データを使うことで確かめることができます。

亀甲橋については、撤去される前に橋全体を立体データとして記録しました。これにより、実物がなくなった後でも、橋の形やつくりをデータとして残し、将来の学習や展示に役立てることができます。また、犬飼磨崖仏については、今回初めて立体的な記録を行い、今後の変化を見守るための最初の記録を作ることができました。

この研究で得られた成果は、地域の大切な遺産を残し、見守り、伝えるための新しい方法です。今後は、これらの立体データを教育や展示に活用し、豊後大野の魅力をより多くの人に知ってもらうことを目指します。

三次元データは [sketchfab](https://sketchfab.com) サイトで公開しています

● 菅尾磨崖仏

<https://skfb.ly/oTNyw>

● 犬飼磨崖仏

<https://skfb.ly/pFoCr>

● 亀甲橋

<https://skfb.ly/pFoCo>